

医療情報学科の授業評価結果に対する考察

医療情報学科・学科長 大久保 憲

1. 授業評価アンケート結果の感想

- 授業の総合評価において、将来役に立つと思うかという問いに対して、高い点数が記載されていることから、将来のビジョンを持って学生が授業に取り組めたものと感じました。
- 授業に積極的に取り組めたかどうかという問いに対しても同様の評価を受けており、目標とする学習水準を多くの学生が達成できたと判断されます。
- 情報に興味強い学生が多いクラスでの授業評価が高い印象があり、システムエンジニアなどの職業を目指さない学生にも興味を持たせる授業の工夫が必要であると感じました。
- 学生自身の授業態度に対する評価は積極的で良好であり、熱心に授業を受けていた状況がわかりました。
- 医療情報学科では特に「実験」の評価を高めるべく、実験に関してその準備を怠らないようにしていかななくてはならないと思います。今年度の評価においては、「実験」での総合評価が高い傾向となってきました。
- 授業の進行速度については、やや速いとする者もいましたので、学生の理解度を把握しながら質問時間を設けるなどして対応していく必要があります。

2. 授業において工夫した点について

- ① 学生の理解が進みやすいようにゆっくり授業を行うことに注意を払い、学生の質問を受けながら授業を進めました。
- ② 小テストを実施し、この結果を積み上げて成績を評価する試みを実施しました。
- ③ 情報ツールに接する機会を増やすため、Web アプリケーションとして授業出席管理ツールや、課題提出ツールを作成して授業に取り入れてみました。
- ④ 講義の進行は早すぎず、ポイントとなる点を繰り返して、強調するように心がけました。
- ⑤ 授業の重要な部分に関しては、必ず資料を配布するようにしました。
- ⑥ パソコンの講義ではあってもホワイトボードに板書し、理論と実践の両面から講義を進めると同時に、無線式マウスを使用するなどして、学生の中に入って授業を行うように工夫しました。

3. 今後の授業にどう生かすか

- 授業評価アンケートにおいて、点数の低い値の項目を中心に授業を振り返り、早速改善できることを抽出して、次年度以降のシラバスにも反映させていく必要があると感じました。
- 実験科目の意義や、将来の仕事との関係を丁寧に説明し、学習の動機づけを図ります。
- プリント、マルチメディア、板書をバランスよく取り入れて、興味ある授業を展開していきたいと考えています。
- 授業中にわからない用語が出てくると話の全体が理解できないため、貸与PCを使用して授業で使用する用語集を直ちに閲覧できるような仕組みを考えていきたいと考えています。
- 質の高い授業ができるように、医療情報学科の教育職員間で教育プログラムについて検討していきたいと思えます。分かり易い授業を展開していくことが大切だと思えます。

4. その他

- 講義内容については、すべてパワーポイントの配布資料として配布できるものではありませんので、授業中に聞き取った事項をその場で書きとめていく努力が大切です。
- 一方で、板書をせずにパワーポイントのみで行っている授業に対する「板書の評価」がなされている点において、何が評価されたのか不明なものもあります。
- 授業評価のアンケート項目では、改善されるべき点に加えて、良い点も抽出できるような内容となると、双方の意見が得られてより詳しく評価できると思いました。したがって、講義形式の授業と実践形式の授業とでは、評価項目や評価方法を変える必要があるのではないかと思われました。